



# 未来へ

埼玉県立川越高等学校  
進路通信「未来へ」1号  
平成30年4月6日  
発行 進路指導部

## 昨年度の入試結果を見てみましょう！

### ◎ 過去3年間の主要大学入試結果 (4/6 現在)

	2018春	2017春	2016春
	合計(現役)	合計(現役)	合計(現役)
北海道大	11 (5)	8 (4)	8 (2)
東北大	12 (6)	11 (7)	6 (3)
筑波大	5 (3)	10 (6)	9 (7)
埼玉大	24 (20)	26 (13)	19 (15)
千葉大	7 (5)	6 (6)	4 (3)
東京大	1	1	6 (4)
東京工業大	4 (4)	4 (4)	6 (3)
一橋大	3	6 (4)	12 (6)
東京農工大	14 (11)	21 (15)	15 (13)
東京学芸大	5 (4)	6 (6)	7 (4)
東京芸術大	1	1 (1)	
東京外国語大	4 (3)	2 (1)	3 (1)
東京海洋大	2 (1)	1	4 (4)
電気通信大	3 (1)	3 (1)	4 (2)
横浜国立大	1	3 (2)	7 (4)
名古屋大	1	2 (1)	1
神戸大		1	
京都大	6 (5)	2 (1)	3
大阪大	1	2 (2)	
九州大	1		
首都大学東京	10 (8)	5 (3)	8 (4)
国公立医学部	4	6 (2)	4
その他の大学	24 (13)	28 (13)	24 (9)
合計	140 (89)	149 (90)	153 (85)

私立大学	2018春	2017春	2016春
	合計(現役)	合計(現役)	合計(現役)
早稲田大	79 (40)	77 (43)	121 (74)
慶應義塾大	25 (14)	32 (20)	38 (18)
上智大	19 (3)	21 (12)	31 (20)
東京理科大	65 (36)	101 (56)	92 (51)
明治大	122 (79)	138 (84)	144 (94)
青山学院大	13 (11)	10 (9)	20 (12)
立教大	49 (26)	59 (36)	74 (39)
中央大	70 (50)	74 (43)	58 (27)
法政大	84 (53)	53 (21)	54 (30)
学習院大	14 (11)	15 (6)	18 (7)
芝浦工業大	63 (43)	79 (50)	73 (37)
私立医学部	3	5 (1)	9 (3)
その他の大学	289 (143)	299 (127)	335 (185)
合計	892 (509)	958 (507)	1015 (534)



### 昨年度の入試全体を振り返って

2020年度からの大学入試改革（センター試験が新しいテストになったりするアレです）が刻々と近づいてきており、特にその改革の対象となる国公立大学で、よりその場での思考力を問うような問題が徐々に増え始めています。国公立大、中でも記述量が多い難関大を志望する人は、問題の変化に対応できるように、コツコツと学力を積み重ねてください、また、私立大学では、入学定員の厳格化（入学定員を規定の割合<昨年度は入学定員 8000人以上の大学で定員の 1.10 倍>以上に超えた大学には、補助金が不交付になるというルール）の厳格化が一昨年よりも進みました（1.14 倍→1.10 倍）。“受かりにくい”という意識が高まっており、各大学で受かりやすい方式・学部を探そうとする傾向も見られますが、しっかりと勉強した人は希望の大学・学部へ合格していますので、やはり早いうちから学力を積み重ねていくことが大切です。全体の志望

傾向としては、近年の大卒の就職状況が好調なことを受け、文高理低の傾向が見られます（もちろん、文系の中でも教育系は志望が集まっていなかったり、理系でも情報系は志望が集まっていたりと、例外はあります）。ただ、ここ数年文系の人気が高まったとはいえ、それ以前は完全な理高文低の状態であったので、理系の人気が著しく低下したというより、文系が理系並みかそれ以上の人気に戻したと言えるでしょう。1年生はこれから文理選択があり、2年生でも文系理系の選択にまだ迷っている人も多いと思いますが、全体の傾向は参考程度にして、自分自身の将来就きたい職業や、受験科目となる教科・科目の適性を十分に踏まえた上で、自分に合った選択をしてください。

### 本校の入試結果を振り返って

国公立大学については、昨年度に比べて大学入試センター試験の平均点が少し下がったこともあり、出願の段階で志望校を下げるなど、少し弱気な出願をする生徒も見られました。ただ、昨年度はセンター試験がとて早かった(1/13,14)分、国公立大の前期日程(2/25)まで時間が例年以上にあり、その時間で巻き返しを図ろうと頑張った生徒も多かったです。その結果、国公立大学の現役合格者数では、久しぶりに90名を超えた一昨年に迫る合格者を出すことができました。中でも、後期で20名以上が合格しており、最後まで諦めずに粘り強く戦った生徒が多かったのも特徴です。難関大では、京都大学に現役で5名の合格者が出たのは特筆すべき内容です。難関大になると特に、合格不合格は本当にわずかな差となりますが、合否を分ける学力は学習した時間と内容に比例して必ず伸びます。難関大を志望している人は特に、早期からの学習の積み重ねを心がけてください。特に2・3年生は今すぐに始めてください！

私立大学については、どの高校も入学定員の厳格化の影響が直撃して苦しんだ昨年並みの結果となりました。入学定員自体は、上述したように昨年よりも厳しくなっていますので、そのことを鑑みれば十分に検討した結果だと言えます。ただ、一昨年同様に、“あと一歩”という生徒が苦しんでいましたので、3教科だからと気を抜かず、その3教科のスペシャリストになるつもりで、早期からの学習を重ねてください。また、一昨年同様にセンター利用入試での合格者数は減らしていない傾向もあり、センター試験や、その中でも文系の数学や理系の国語を受けていると（つまり、4教科以上を受けていると）センター利用入試の選択肢が広まるなど、国公立大志望者に有利な状況も続きます。これらを踏まえ、2・3年生の文系の生徒は特に、国公立大の志望を維持してください。維持することで、私大の受験にも必ず役立ちます。

文中で何度も繰り返しましたが、一番大切なことは、目標をしっかりと、高く掲げ、そこに向けた学習を日々重ねていくことです。志望する大学へ行けるかどうかは自分自身の努力次第です。頑張りましょう！

### まずは学習習慣の確立を！！<今年も！！>

毎年のこの号に載せていますが、今年もまた改めて載せます。日々の学習の参考にしてください。

#### (1) 毎日の絶対的な学習時間を確保する

部活や行事などで忙しい毎日ですが、日々の学習なしでは学力向上は望めません。すき間時間（電車などの通学時間、学校での休み時間など）を活用するのはもちろんですが、特に数学や理科の問題にじっくり取り組むために、まとまった時間（最低でも1時間以上）を作り出してください。食事の前、寝る前、朝早くなど、生活スタイルによって時間をとれるタイミングは違うと思いますが、毎日固定すると続けやすくなります。毎日の学習時間の総合計も、昨年話題になった神奈川の某公立高校のように、平日：(学年+2)時間、休日：(学年+4)時間と言いたいところですが（難関大志望者はこのくらいは当然です）、近年の皆さんの学習時間を見ると、まずは平日：(学年+1)時間、休日：(学年+3)時間を目指してください。余談ですが、一昨年度東大と医学部に合格した先輩は、それぞれ夏休みに合計500時間（1日平均10時間以上）やっていました。時間をしっかりかけた学習をしましょう。あと、スマホは1日30分まで！！<某予備校の調査では、現役合格者の1日のスマホ平均使用時間は、ゲーム0分、ラインなどの連絡・通話30分、でした！！>

#### (2) 目標を高く持つ

大学入試で大切なのは、“行きたい大学”を高く掲げることです。“東大とか自分が目指しているのかな…”と言う人もたまにいますが、川越高校に通っている以上、どの大学も目指す資格があります。自分がどこまで伸びるのかにチャレンジするのも、大学受験の大きな意義のひとつです（川越高校生は目標とした大学の分だけ伸びます）。“この大学を志望しているんだ！！”と臆せずに言ってみてください。同じような仲間がきっといるはずです。そういう仲間をお互いに見つけて、時には励ましあいながら切磋琢磨してください。我々も皆さんの志望校への頑張りを全力でサポートします。